

令和 3 年度 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 経営計画表

1 学校の現況

学校番号	54	学校名	県立竜ヶ崎第一高等学校				課程	全日制		学校長名	太田垣 淳一					
教頭名	高野 健二			教頭名			川田 利行			事務長名	野口 範正					
教職員数	教諭	43	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	4	実習教諭,実習講師,実習助手	1	事務職員	6	技術職員等	5	計	65
	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
	普通科	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
		136	104	130	109	162	115			428	328	19				

2 目指す学校像

10年先を透徹した生徒主体の探究学習

- 【高潔】 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する
- 【誠実】 まっすぐ学びに向き合う、誠実で知的な学びの場となる
- 【剛健】 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける
- 【協和】 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる

3 現状分析と課題

項目	現状分析	課題
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年・教科・分掌がサイロ化している ・ 志願倍率こそ県内有数（1.28倍）だが、少子化・公立離れに抗うだけの競争力は保持できていない ・ 超過勤務となる教員が複数存在する（令和2年度は、月80時間以上に達した者が3名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程の差別化・特色化 ・ 生徒募集の戦略化 ・ 卓越した進学実績を生む学習指導・進路指導 ・ 経営機能／カリキュラム・マネジメントの導入と学年・教科・分掌間の連携強化 ・ 部活動・分掌等におけるこれまで以上の仕事の効率化、業務分担の適正化
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導の役割が、複数の組織に分散している ・ 一方向型の授業も多く、内発的動機づけや問いを引き出す指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導にあたる組織間の連携 ・ 教科内における、学年を超えた学び合いの推進

	<p>技術が開発途上。ICT 活用も濃淡の差が大きい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的・計画的に学習を進める習慣が定着していない(約95%が授業に真剣に取り組む一方、27%は家庭学習時間が不足し、予習・復習の実施率も約70%に留まる) ・思考力や表現力を問う問題に十分対応できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究を軸とした思考力・表現力等の育成と教科連携 ・反転学習の導入 ・生徒の学習行動の可視化・分析 ・6年間を見通した各教科の指導プログラムの明確化
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の多様化が進む中、実力を過小評価し、自己の進路実現に適した具体的な行動に移せない生徒が多い ・国公立難関大学/医学部医学科レベルの生徒が少ない(直近5年間、東大合格者数ゼロ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・出口戦略に係るノウハウの整理・最新化・共有 ・生徒の希望や資質及び適性に応じた進路指導力の開発 ・難関大学指導を行える教員の育成と、教員間での連携 ・希望進路の明確化など初期指導の充実 ・難関大学対策チームの樹立
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を取り巻く環境が個別・複雑化し心身とも不安定な生徒が増えている(令和2年度はSC利用のべ26回、SSW利用のべ2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム学校での対応(面談回数の増加・情報共有) ・SC / SSW との協力強化
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・約半数の生徒が活動歴を記録できていない ・キャリアパスポートの活用が充分なされていない ・生徒会、行事、部活などにおいて、生徒の関与が受動的な範囲に留まるものが有数ある ・2割ほどの部活動未加入者がいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に委ねる余地を拡大する ・総合型選抜の存在を生徒に周知し、ポートフォリオをきちんと蓄積させる ・学年・進路指導部と協力し、キャリアパスポートの活用を促進する ・部活動未加入者を含め、オンラインを含めた多様な活躍場面を提供する

4 中期的目標と本年度の重点目標

中期的目標(太字)と重点目標(本年度のものに○)	評価指標	担当
【生徒】21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る		
○ ICTを活用したアクティブ・ラーニング(自己調整学習)を推進する	電子教材支出, IT 資格	SSH, 教科, 教務
○ 多様な学びを促進する学習環境を提供する	施設利用者数	情報, 図書
○ 生徒が主体性を発揮できる自由を創出する	自己効力感アンケート	特活, 生指, 学年
グローバル教育を全校での取り組みに昇華させる		国際交流委
○ キャリア教育の再生を通じ、生徒の学ぶ動機を強化する(キャリアパスポート等の活用)		教務*(, 学年) 特活
地域特性を活かし差別化された学びを提供する		教務*

【学校・教職員】名実一致した合理的で生産的な教育機関となる		
○ 学校の向かう方向性を一にする	一貫した GD, 経営計画, 3 方針の展開	校長
○ カリキュラム・マネジメントの機能を構築する	校務運営会議の刷新	校長
○ 組織の生産性を高める（働き方改革）	超過勤務時間の削減	教務, 事務, 全教職員
○ ゆるぎなき教科教育の質を達成する	生徒の資質・能力の向上	教務, 教科 (, 進路)
カリキュラム・ポリシーにもとづく 6 年間一貫した学びを提供する		教務, 教科
○ エビデンス・ベースの筋肉質な出口指導を行う	進学実績	進路
アドミッション・ポリシーにもとづく戦略的な生徒募集を行う		学検委
○ 安心・安全の学校環境を維持する	生徒の事故 0, 教員の不祥事 0	保健, 生指, 学年
【地域社会】地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる		
地域人材を活用した、開かれた教育を推進する		教務, 教科, SSH, 渉外
○ 竜一の価値を効果的に伝え支援者を増やす	HP アクセス数	教務, 情報
地域に支えられた持続可能な部活動に転換する		特活

教務*（教務部、進路部、SSH 部内で教務的な業務を担っている者）